



穴あきラップ 家庭用 利用の 皮膚トラブル処置について

平成24年4月10日
医療法人耕仁会 介護老人保健施設セージュ新ことに
2階認知専門棟
准看護師 小林福子 渡辺幸子



はじめに

高齢者は・・・

加齢による皮膚の老化
免疫代謝機能の低下
低栄養
複数の疾患



皮膚の生理機能を損ない、皮膚トラブルになりやすい！

その処置方法として・・・

簡便かつ安価なラップ療法を取り入れ、皮膚状態の改善を図る



いままでの傷の治療の常識とは？

傷は消毒しなければいけない。

消毒しないと化膿する。

傷はガーゼで覆う。

傷は乾かして、かさぶたを作って治す。

傷(縫った傷)は濡らしてはいけない。

これらの全てが間違っていたのです！！



治療の過程

10年以上前の褥瘡処置

イソジン消毒

ユーパスタ(ネグミングシュガー)

感染がなければ消毒不要

創洗浄



傷に消毒してはいけない理由

1) 感染に対して防御機能をもつ白血球、マクロファージが消毒液で障害を受ける。

感染に対して無防備になる。

2) 組織の再生をになう繊維芽細胞、上皮細胞などが消毒液で障害を受ける。

3) しかも、消毒液を塗っても一時的なものである。

細菌に対して効いていない。

以上から、傷に消毒液を塗ることは、
傷を治らなくしていることと同じである！



現在の処置方法

1日1回 弱酸性石鹸で洗浄
大きい穴あきポリ袋を創部にじかに覆う。
その上をオムツで覆う。

そして

オムツ交換時に
微温湯で洗浄しラップを交換する。



事例対象者

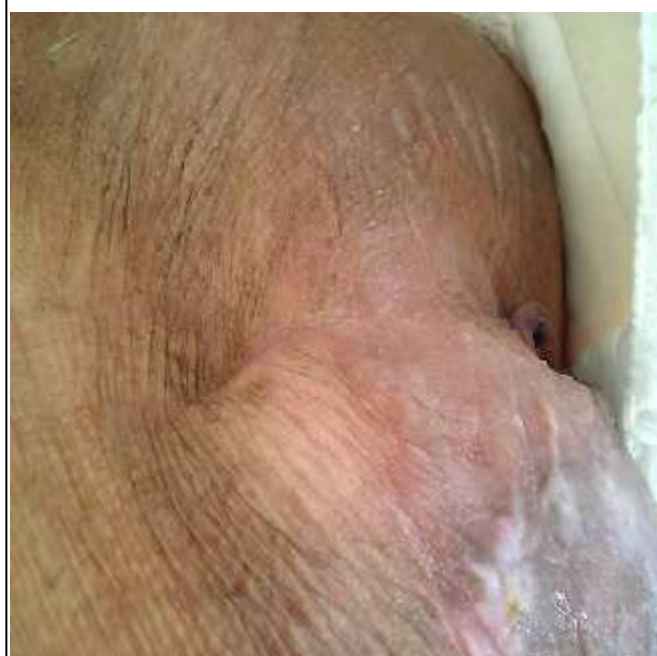
事例1: 98歳 女性 痩せ型 要介護度4
常に車椅子使用 尿失禁量多い
薄い皮膚 臀部に褥瘡

事例2: 81歳 女性 痩せ型 要介護度4
食事摂取量にムラ 全身状態不良
時々補液施行
臀部に数個の皮膚剥離

事例 1



1日目



5日目で完治

事例 2 NO1



1日目



3日目



5日目



15日目

事例 2

N02



20日目



22日目



25日目



29日目で完治



傷を乾かしてはいけない理由

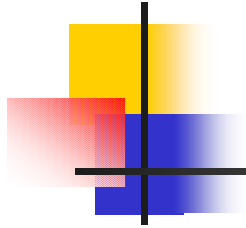
- ・ 傷を乾かすと、細胞はひからびて死滅し傷は治らない。したがって、種々の被覆材で覆って、湿った環境を保つことが大切。

ラップをしてはいけない場合

- ・ 深いところまで刺さった傷は、必ず感染を生じるので、膿が出るまで傷を閉じてはいけない。
- ・ ASOなど血流不全がある傷には、適さない。

皮膚剥離評価表

年 月 日	ランク	経過	経過
名前 様			
ケア内容		経過	経過



ご清聴
ありがとうございました。

